

場所:新治市民の森

日時:2014年3月6日、13:00 JR十日市場駅集合、15:30 にはる里山交流センターで解散

参加:飯塚、大野、加茂、小杉、福田、福島 (敬称略)

特記事項:北部公園緑地事務所の内山さんも参加戴き、現地を歩きながら大変丁寧な説明を受けた。

(以下、文中の数字は別紙の写真です。)

きれいな青空だが空気はとても冷たい昼過ぎ、JR線十日市場駅に6名が集合し約10分歩いた後、急激な階段を下りて(①)にはる里山交流センターに。そこで内山さんと同センターを運営する吉武さんに迎えられた。新治市民の森のジオラマの前で吉武さんからこのエリアの説明を受け(②)、内山さんからガイドマップと資料「新治市民の森保全管理計画について」をいただく。

説明を受けた新治市民の森の特徴 (注:2013年11月に参加した市主催の「秋の里山・新治市民の森を歩く～みどり税を活用している樹林地の調査」レポートの「新治市民の森の概要」も参照して下さい)

■この一帯は新治市民の森と新治里山公園で構成されているが、その理由は;

“市民の森”は市と地主との間の10年契約で緑が保存されているが、住宅地区に近い北側は開発を予防する為、都市公園法による“公園”にして保存を確実なものとする。

■以下の3つのゾーンに分けて、全体との調和がとれる様に各ゾーンを計画的に整備、管理している。

- ・Aゾーン:新治里山公園、自然の中で遊ぶ、学ぶ、知る
- ・Bゾーン:里山の景観や文化の保全・伝承、保全活動への市民参加
- ・Cゾーン:生きものの生息環境を保全、静けさを生かした利用

内山さんを先頭に新治里山公園を經由して新治市民の森に入った(③)。3つのゾーンを巡ったが、内山さんから場所、場所で、整備の目的と整備状況・将来の姿、及び、陽当たり状況・水・草花・灌木・大木・昆虫・鳥との相互連鎖(例:草むらを整備するとバッタが戻ってきて、それを餌にする小鳥が戻ってきて、そして一、等々)につき大変丁寧な説明を受けた。

以下、要所毎に内山さんから受けた説明を簡単に報告する。

旭谷戸(④):陽当たりを元に戻す為、南側の丘に鬱蒼と茂っていた樹木(⑤)を計画的に伐採

谷戸田:谷戸の水田の両サイドの丘の樹木を計画的に伐採

上り坂の林の中:イノデ、リョウメンシダが群生する湿潤なエリア(⑥)

里山の継承地を廻る尾根道:左手は急激な崖の狭い登り道で、愛護会が木製の階段を設置(⑦)

常見谷戸:尾根道を離れ急な下り道に、この谷戸は昔(40~50年前)水田だったが1m以上盛土され葦の原に、現在は葦を切り取り以前の畔を復元中(⑧)

その後、梅の花を愛でながら散在する民家の間を抜ける。フツと煙の匂い。ある家のH傘煙突から2本の煙。煙突の位置から、里山から切り出した薪で風呂でも焚いているのか?里山と普段の生活が密着しているエリア、と想像しつつのんびり歩きながら新治小学校を右手に見て、出発地点のにはる里山センターに戻った。

3Km 弱の行程であったが、あちこちで内山さんの熱心な説明を受けた為、アツと云う間の約2時間の充実した観察会であった。内山さんと別れた後、6人は公園の一角に復元された旧奥津邸で一休み(⑨)。冷えた体に熱いコーヒーが殊更美味しかった。 以上

## 別紙

撮影:小杉さんと大野さん

①



②



③



階段の下はいいはる里山交流センター

ジオラマの前で吉武さんを待つ

内山さんを先頭に森に入る

④



旭谷戸を望む

⑤



④の右手の丘の以前の森

⑥



Cゾーンの一部、シダの群生地

⑦



登りの尾根道

⑧



常見谷戸で畔の復元

⑨



旧奥津邸の入り口